

はじめに

大阪歴史博物館では、館蔵資料の活用・公開をひとつの柱として、さまざまな調査研究に取り組んでまいりました。特に共同研究事業は、外部研究者の方々と交え、より広い観点から博物館所蔵資料の価値を高めるべく実施し、その成果を広く市民や研究者に公開しています。

本報告書では、平成29～31（令和元）年度に実施した共同研究「中村順平の設計活動と建築教育に関する研究」の成果を報告します。中村順平は、大阪出身の建築家で、日本人として初めてパリの美術学校エコール・デ・ボザール建築セクションに学び、フランス政府公認建築士となったことで知られています。平成18年度に中村順平の弟子たちの集まりである檜の会（代表：松本陽一氏）より、建築家・中村順平資料の寄贈を受けたことをきっかけとして、各関係者より中村順平の資料が寄贈されてきました。本報告では、建築家・中村順平資料群のうち、横浜高等工業学校時代の資料を対象に、中村順平の設計活動と建築教育に関する部分を解明するため、外部の研究者を交えて研究を行った成果を報告するものです。本書が広く活用され、大阪の歴史と文化、建築に対する研究の進展に寄与することができたら幸甚です。

なお、本研究の遂行半ばにして、主担当の当館学芸員 酒井一光が逝去いたしました。引き続き、共同研究をまとめていただいた外部研究員の皆様に深く感謝いたします。

末尾になりましたが、各寄贈者および本研究の推進にあたりまして、ご協力いただきました関係各位に、あらためて厚く御礼を申し上げます。

令和3年3月

大阪歴史博物館

(凡 例)

- ・ 研究主担者である酒井一光が平成 30 年 6 月に逝去したため、本報告書では酒井の研究報告は掲載できていない。
- ・ 酒野晶子氏インタビュー報告については、前半部分を酒井一光が担当し、後半を澤井浩一が引き継いで編集した。
- ・ 平成 30 年度後半以降の研究事務等については、澤井浩一と阿部文和（平成 31 年度から）が引き継いだ。
- ・ 本報告書の編集は、澤井浩一が担当した。